



心臓財団 季報

No.187

● 財団法人日本心臓財団 ●

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル 835 区-A

○Tel 03-3201-0810 ○Fax 03-3213-3920 ○e-mail:info@jhf.or.jp ○http://www.jhf.or.jp/

MAY 10, 2007

平成19年度 日本心臓財団事業計画

平成19年度の事業計画を決定 ～第51回評議員会・第112回理事会にて～

3月5日、東京の銀行倶楽部にて第51回評議員会・第112回理事会が開催され、平成19年度事業計画、収支予算について審議し、評議員会において承認され、理事会において可決しました。事業概要は以下のとおりです。

I. 研究助成事業

A. 個別研究助成

1. 第33回日本心臓財団研究奨励の実施
2. 第5回日本心臓財団若年研究者研究奨励（藤基金）の実施
3. 第5回日本心臓財団動脈硬化Update研究助成の実施
4. 第3回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成の実施

B. 賞関係

1. 第33回日本心臓財団佐藤賞の贈呈
2. 第32回日本心臓財団草野賞の贈呈
3. 第22回日本心臓財団予防賞の贈呈
4. 第3回日本心臓財団小林太刀夫賞の贈呈
5. 第12回日本心電学会学術奨励賞の後援

C. 多施設共同研究助成

- 1. 虚血性心疾患に関する観察研究
- 2. 虚血性心疾患に関する介入研究
- 3. 虚血性心疾患と脂質低下療法に関する観察研究
- 4. 虚血性心疾患と脂質低下療法に関する介入研究
- 5. 心室細動に関する観察研究
- 6. 心室細動に関する介入研究
- 7. 突然死に関する観察研究
- 8. 心房細動に関する介入研究
- 9. 慢性心不全に関する観察研究
- 10. 慢性心不全に関する介入研究
- 11. 高血圧に関する観察研究
- 12. 高血圧に関する介入研究
- 13. 糖尿病と心血管病に関する介入研究
- 14. 血栓症・塞栓症に関する観察研究
- 15. 心臓外科治療に関する観察研究 など

II. 会議・研究会助成事業

1. 第29回美甘レクチャー（日本循環器学会特別招待講演）への助成
2. 第20回日本循環器病予防セミナー
3. 第30回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会
4. PCI Technical Education Course
5. 日本超音波医学会第80回学術集会
- 6. 第16回日本心血管インターベンション学会学術集会
- 7. 第13回日本心臓リハビリテーション学会学術集会
- 8. 第12回日本冠動脈外科学会学術集会
- 9. TOPIC 2007
- 10. 第5回田原一アショフシンポジウム
- 11. 第24回日本心電学会学術集会 など

Ⅲ. 広報啓発事業

1. インターネット「心臓財団のホームページ」関連広報活動
2. 日本循環器学会との協力事業
 - 1) 病院掲示用壁新聞「健康ハート」の発行
 - 2) 一般向け情報誌「健康ハート」の発行
 - 3) 市民公開講座の開催
3. 予防啓発小冊子の発行
4. 「健康ハートの日」活動
 - 1) 8月10日キャンペーン(東京、豊橋、一宮、鹿児島)
 - 2) 広報活動ポスターの製作配布等
5. 世界心臓連合(World Heart Federation)加盟団体としての諸活動
 - 1) 世界心臓連合(WHF)加盟分担金の納入
 - 2) 9月30日、世界ハートの日事業
6. 禁煙推進活動
 - 1) たばこ健康問題NGO協議会による世界禁煙デー記念シンポジウムの開催
 - 2) 禁煙推進ネットワークを中心に活動
7. 生活習慣病改善プログラムの作成
8. 日本心臓財団メディアワークショップの開催
9. 予防活動団体への協力
10. 日本心臓ペースメーカー友の会事業への協力
11. 日本川崎病研究センター事業への協力
12. トーアエイヨー(株)によるラジオNIKKEI「心臓財団虚血性心疾患セミナー」
13. 月刊誌「心臓」の発行
14. 機関紙「季報」の発行

第3回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成対象者決定

当財団では、ノバルティスファーマ株式会社の協力を得て、循環器領域における分子細胞生物学的研究の進歩に著しい貢献が期待される40歳以下の少壮研究者育成のために、第3回日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成を実施いたしました。

本研究助成に56題の応募があり、選考委員10名による書類審査が行われ、3月16日に開催された選考委員会において下記の10名が選考されました。助成金額はそれぞれ100万円です。

また、この助成研究は来年の7月に発表報告会が予定されております。

選考委員(五十音順・敬称略)

- 伊藤 宏 秋田大学医学部循環器内科学教授
- 北風 政史 国立循環器病センター心臓血管内科部門部長
- 倉林 正彦 群馬大学大学院医学系研究科臓器病態内科学教授
- 小室 一成 千葉大学大学院医学研究科循環病態内科学教授
- 斎藤 能彦 奈良県立医科大学第一内科学教授
- 砂川 賢二 九州大学大学院医学研究科循環器内科学教授
- 筒井 裕之 北海道大学大学院医学研究科循環病態内科学教授
- 永井 良三 東京大学大学院医学系研究科循環器内科教授
- 室原 豊明 名古屋大学大学院医学系研究科器官制御内科学教授
- 森下 竜一 大阪大学大学院医学研究科臨床遺伝子治療学教授

助成対象者

(五十音順・敬称略)

番号	氏名	所属	研究課題
1	朝倉 正紀 (39歳)	国立循環器病センター 臨床研究開発部 医長	心筋細胞生存におけるEGF family-ErbB受容体シグナルの役割解明
2	桑原宏一郎 (40歳)	京都大学大学院医学系研究科 内分泌代謝内科 講師	心筋胎児型イオンチャンネルの発現制御と心不全病態形成への関与および分子機序の解明
3	小和瀬桂子 (36歳)	群馬大学大学院医学系研究科 臓器病態内科学 研修登録医	糖尿病性血管障害におけるユビキチン類似タンパク質SUMOの機能解析
4	成 憲武 (39歳)	名古屋大学医学部 循環病態探索医療学 助手	心筋梗塞による心筋リモデリング及び心筋ラプチャーの新たな分子機構の解明と治療法の開発
5	竹内 純 (36歳)	東京工業大学生命理工研究科 グローバルエッジ研究院 特任助教授	ヒト先天性心房室中隔欠損症を引き起こすSpalt遺伝子群の研究
6	竹下 享典 (38歳)	名古屋大学大学院医学系研究科 循環器内科学 特任助手	Notchシグナル抑制による動脈硬化病変の制御
7	館野 馨 (37歳)	千葉大学大学院医学薬学府 循環器病態学 研究生	単核球細胞を用いた血管再生治療における筋芽細胞活性化・増殖の重要性とその分子機序
8	谷山 義明 (40歳)	大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学 助手	接着阻害因子ペリオスチンに着目した新規急性心筋梗塞治療法の開発
9	西村 智 (32歳)	東京大学医学部附属病院 循環器内科 大学院生	脂肪組織での血管新生の可視化によるメタボリックシンドロームの病態解明と抗肥満治療
10	渡邊 博之 (39歳)	秋田大学医学部 循環器内科学 講師	血管内皮機能異常におけるCa流入性TRPチャネルの役割

平成19年度 日本心臓財団研究奨励募集

心臓血管病(心臓病、脳卒中、高血圧、動脈硬化症等)の成因、治療あるいは予防に関する独創的研究に対し行います。本年度より藤基金が1件100万円を2件より50万円4件になります。

1. 研究奨励金および応募資格

わが国に在住し、心臓血管病の基礎、臨床または予防に携わる研究者。なお、研究奨励金を受けた者は、同一の研究奨励に再度の応募はできません。

1) 第33回日本心臓財団研究奨励

1件200万円を10件。

40歳未満の研究者

(1967年4月1日以降に生まれた者)

2) 第5回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)

1件50万円を4件。

30歳未満の将来性のある若手研究者

(1977年4月1日以降に生まれた者)

2. 応募期間

平成19年6月1日~7月15日

第5回 日本心臓財団 動脈硬化Update研究助成募集

「動脈硬化」は、脳卒中、心臓疾患、糖尿病等と関連が深く、高齢化が進む今日、これらの予防、治療はますます重要です。動脈硬化研究の一層の発展と少壮研究者の育成のために、動脈硬化領域における基礎、臨床、疫学に携わる研究者に助成します。

1. 研究助成金

200万円を1件と100万円を2件

2. 応募資格

1) 対象：原則として個人研究

2) 年齢：1967年4月1日以降に生まれた者

3) 施設：臨床教室及びそれに準ずる施設

4) ただし、次の事項に該当する者は応募できない。

・同一研究テーマで他の助成を受けた者

・研究発表会(9月1日(土))当日に口演不可能な者

・前年度の助成対象者

5) 海外での業績については応募除外(国内のみ)とする。

6) 原則として日本国内の研究施設に所属する者に限る。

7) 倫理上問題となることが予想される研究については、所属施設の倫理委員会の承認を得ていることを示す書類のコピーを添付する。

3. 応募締切日

平成19年6月15日(金)必着

第11回 日本心臓財団・ファイザー心臓血管病研究助成対象者決定

当財団では、ファイザー株式会社の協力を得て、循環器学の発展と40歳未満の少壮研究者の育成のため、本研究助成を実施して参りましたが、今回をもちまして終了いたしました。長年にわたり選考にあられた先生方、ご協力いただきましたファイザー株式会社に御礼申し上げます。

第11回の研究テーマは「不整脈の治療—臨床~分子生物学的アプローチ」で、昨年28名の応募者によるポスター発表の中から12名が選考され、本年3月3日、東京・灘尾ホールにおいてその12名による口演発表をもとに下記の4名が選考されました。助成金はそれぞれ200万円です。

選考委員(五十音順・敬称略)

井上 博	富山大学医学部第二内科学教授
小川 聡	慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科教授
奥村 謙	弘前大学医学部内科学第二講座教授
北 徹	京都大学大学院医学研究科循環器内科学教授
児玉 逸雄	名古屋大学環境医学研究所教授
斎藤 能彦	奈良県立医科大学第一内科学教授
永井 良三	東京大学大学院医学系研究科循環器内科学教授
野出 孝一	佐賀大学医学部循環器内科学教授
藤原 久義	兵庫県立尼崎病院院長
松崎 益徳	山口大学大学院医学研究科器管病態内科学教授

助成対象者

(五十音順・敬称略・年齢は昨年応募時)

番号	氏名	所属	研究課題
1	朝野 仁裕 (35歳)	大阪大学大学院医学系研究科 内科学講座循環器内科	心臓における細胞核クロマチンリモデリングに伴うエピジェネティックな遺伝子発現変化と心筋変性との関わり — 一催不整脈性右室心筋変性症(ARVC)に対するアプローチ—
2	関 明子 (35歳)	東京女子医科大学 循環器内科	心筋ギャップジャンクションチャンネルを標的とした新しい不整脈治療法の開発
3	中村 一文 (37歳)	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 循環器内科	心不全に伴う不整脈発生機序の解明 — 4-Hydroxy-2-nonenalによる活性酸素発生を介した心筋細胞のカルシウム過負荷—
4	林 研至 (36歳)	金沢大学医学部附属病院 検査部	薬物誘発性QT延長症候群の発症を調節するKCR1の役割

第32回 日本心臓財団 佐藤賞 矢野 雅文 講師が受賞

第71回 日本循環器学会総会・学術集会にて



日本心臓財団佐藤賞は、当財団の故佐藤喜一郎初代会長を記念して設けられたもので、近年循環器領域で顕著な業績をあげ、今後もこの分野で中心的な役割を果たすことが期待される50歳未満の研究者1名に贈られるものです。日本循環器学会会長を委員長とする選考委員会において選考され、今回は山口大学器官病態内科学の矢野雅文講師に決定しました。第71回日本循環器学会総会・学術集会(会長:横山光宏 神戸大学大学院医学系研究科循環呼吸器病態学教授)会期中の3月16日に神戸ポートピアホテルにて授与式が行われ、当財団の杉本恒明副会長より賞牌ならびに100万円が贈呈されました。研究課題は、「心不全・不整脈治療標的としてのリアノジン受容体」で、同学術集会において受賞記念講演が行われました。

第31回 日本心臓財団 草野賞 林 純哉 博士が受賞

第32回 日本脳卒中学会総会にて



日本心臓財団草野賞は、当財団の故草野義一初代理事長を記念して設けられたもので、この1年間に脳血管障害に関する学術雑誌に掲載された40歳未満の研究者の論文に対し贈られるものです。今回は京都大学医学部脳神経外科の林 純哉氏に決定しました。第32回日本脳卒中学会総会(会長:佐渡島省三新日鐵八幡記念病院院長・理事長)会期中の3月22日にJALリゾートシーホークホテル福岡にて授与式が行われ、佐渡島会長より賞牌ならびに50万円が贈呈されました。受賞論文は、「霊長類胚性幹細胞由来神経前駆細胞の虚血脳内への移植」でした。

第22回日本心臓財団予防賞 久代 登志男 准教授が受賞

第43回 日循協総会にて



日本心臓財団予防賞は、地域社会に密着し、循環器疾患予防に永年貢献もしくは学術研究開発に功績のあった団体あるいは研究者を対象に贈られるものです。今回は日本大学医学部総合健診センターの久代登志男准教授が選ばれました。受賞研究は、「高血圧における肥満とインスリン抵抗性の臨床疫学的意義の解明に関する研究」です。受賞理由は、肥満とインスリン抵抗性と高血圧の関連に関する疫学と臨床研究を通じて、高血圧の予防、および血圧管理に有用な生活習慣改善の施策を提言し啓発につとめてきたことによるものです。来る5月25日、第43回日本循環器管理研究協議会(日循協)総会において授与式が行われ、賞牌ならびに50万円が贈られます。

第3回日本心臓財団小林太刀夫賞 高島市保健師グループが受賞

第43回 日循協総会にて

当財団では日本循環器管理研究協議会の協力を得て、同協議会初代理事長の名を冠した日本心臓財団小林太刀夫賞を授与しています。これは地域と密着して、循環器病を中心とした生活習慣病予防のために長年貢献し、生活習慣等の改善により疾病管理に実効を挙げた活動、あるいは予防のための創意工夫により将来において疾病管理の実行が期待できる活動を展開中の保健師、看護師、栄養士の個人または団体に贈られるものです。その第3回には、高島市(滋賀県)において、長年にわたり肥満解消を主目的とした糖尿病予防教室や、糖尿病治療管理不良患者を対象とする合併症予防の学習会の実施により地域の生活習慣病予防・治療に貢献したこと、および地域の疫学調査の実施により、高島市保健師グループが選ばれました。第22回日本心臓財団予防賞とともに、日本循環器管理研究協議会(日循協)総会において授与され、賞牌ならびに50万円が贈られます。

第72回生活習慣病予防講演会

～市民公開講座「みんなで楽しく健康長寿」～

●日 時：2007年5月26日(土) 15時～16時40分

●会 場：コラボしが 3階 大会議室
滋賀県大津市打出浜2番1号

●参加費：無料

参加申込み：住所、氏名、電話番号(FAXでも可)を明記の上、
ハガキまたはFAXでお申し込み下さい。
先着順にて整理券を発行します。

●主催：日本循環器管理研究協議会、日本心臓財団

■申し込み・お問い合わせ

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門 FAX：077-543-9732

●プログラム●

1. 血管の老化を防ぎ、元気に老いる

上島 弘嗣

(滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部)

2. ぼけたらあかん、元気で長生き

早川 一光

(幸・総合人間研究所)

第20回 日本循環器予防セミナー

循環器疾患予防は保険者による特定健診・特定保健指導の平成20年度からの実施を控え、メタボリックシンドロームに関する意義の検討など大きな転換点にあります。将来的には医療と予防との関係の見直しを迫る大きな動きです。一方医療の分野でも介入研究やそれ以外の臨床研究の重みが急速に増大しており、臨床研究実施の有無が医療機関の評価にも直結する時代となってきました。

今回のセミナーでは第20回記念として従来の試みを更に発展させアドバンスドコースとして第一線で診療や研究に従事している方々を対象に「共同研究のデザイン」をテーマとして実施したいと思います。講義は最小限にとどめますので、ある程度の疫学的な知識を前提としますが、必要な場合には自由時間を活用して補充講義を実施します。循環器予防セミナー参加経験者をはじめ予防・臨床分野で新たな共同研究を企画・推進する意欲のある方を募集します。

●講師・受講生

(予定)・講師 17名

・受講生 35名

※循環器予防学に燃えている医師、大学院生・研究生、コメディカルを歓迎します。公募の上決定しますが、基本的に早い方を優先いたします。

セミナーの内容：意義が高く実施可能な循環器疾患予防・臨床研究デザインの作成

- ・グループワークによる検討と全体討論
- ・研究規模(概ね年額5000万円以内、3～5年間)
- ・厚生労働省・文部科学省等の研究費補助金を獲得できる内容

受講料セミナー費用、食事代(3食)、宿泊費込みで3万円

期 日：平成19年7月26日(木)～30日(月)

場 所：結核予防会結核研究所

東京都清瀬市松山3-1-24

主 催：日本循環器管理研究協議会、日本心臓財団

事務局：(申し込み・問い合わせ)

社団法人日本循環器管理研究協議会事務局

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-48-10 25山京ビル305号

TEL：03-3989-0680 FAX：03-3989-0953

E-mail：fvgh4570@mb.infoweb.ne.jp

●書籍紹介

心臓力ふたたび 私のいきいき体験

杉本恒明 監修
日経メディカル開発 編

心臓病に罹ったとき、医師の難しい説明を理解できずに不安になった経験を持つ方も多いと思います。また、多くの市販の家庭医学書も、今後の生活がどうなるのかといった本当に身近な問題や不安など、実際の患者さんの立場になって書かれたものが少ないのが現状です。

本書は、実際にペースメーカーや除細動器を植え込んだ患者さんや、ステント治療や弁置換術を受けた患者さんの体験談と、その主治医のコメントが対になって書かれており、患者さんの治療前の不安な思いとその後の生活、それを見守る担当医師の正確な情報と暖かい眼差しが両方伝わるようになっています。また、自分の治療体験をこれからの患者さんに伝え、相談に答えようと活動している患者さんの会の方々の座談会も掲載されており、まさに患者さんの目線で書かれた心臓病の解説書になっています。ぜひ一読ください。

(発売：日経BP出版センター 電話03-6811-8200 本体価格1,800円)



海外からの研究者に対する助成

日本心臓財団では循環器疾患の研究分野においてASEAN諸国等の研究者の来日に対し、東京海上日動火災保険(株)による海外研究者研修助成を実施しています。

- 1) 日本医科大学第2生化学にて研究 80万円
平成19年4月1日～11月30日(8カ月間)
Banyar Than Naing氏(ミャンマー)
- 2) 第71回日本循環器学会総会・学術集會に参加発表
平成19年3月15日～17日 各10万円
イラン Ashkan Mowla氏、Arash Mowla氏
インドネシア Erika Maharani氏
シンガポール Ye Lei氏
スリランカ Shehan Nicolas Perera氏
タイ Somkiat Sopontammarak氏
ネパール Siddhartha Pradhan氏
パキスタン Fatima Samad氏
マレーシア Yoon-Sin Chong氏

- 3) 第5回国際留学生Young Investigator's Award
アジアから日本に留学している若手研究者を対象に、第71回日本循環器学会総会・学術集會で発表

最優秀賞 成憲武 氏 20万円

(名古屋大学医学部老年科：中国)

優秀賞 権相模 氏 10万円

(理科学研究所神戸研究所発生・再生科学総合研究センター：韓国)

Ping Li 氏 10万円

(名古屋大学大学院医学系研究科循環器内科学：中国)

林 雪 氏 10万円

(京都大学医学部心臓血管外科：中国)

ご支援ありがとうございます

当財団へのご寄付

次の方からご寄付を頂戴しました。ここにご芳名を記して感謝の意を表します。(2007年2月～2007年4月)

小川 勝 様	東京都中野区	50,000円
匿名		50,000円
匿名		20,000円
株式会社東横イン 様	東京都大田区	100,000円
株式会社アクセル 様	東京都千代田区	2,000,000円
匿名		100,000円
匿名		50,000円
藤井 裕介、Nola 様	愛知県一宮市	30,000円
小松 晴茂 様	高知県高知市	50,000円
「ワシントンがゴールを決めるたびに日本心臓財団に寄付をする企画」の賛同者2名		10,200円

当財団をご支援下さる方

栗田 明 様 柘山 幸志郎 様

2007年世界禁煙デー記念 シンポジウムのご案内

世界保健機関(WHO)が世界中の国々に呼びかけている世界禁煙デーは、今年で20回目となります。今年のシンポジウムでは、「無煙環境を考える」をテーマに、効果的な受動喫煙防止対策を中心とした喫煙の問題について、専門家を招いて現状と今後の対策をご講演いただきます。

テーマ「無煙環境を考える」

本年度のWHOの標語

「たばこ、煙のない環境(Smoke-Free Environments)」

日 時：平成19年5月31日(水) 開場12時30分

会 場：サイエンスホール(東京都千代田区北の丸公園2-1)

■共 催(予定)

厚生労働省、日本医師会、日本歯科医師会、日本薬剤師会、日本看護協会、たばこ健康問題NGO協議会研究会[がん研究振興財団、結核予防会、健康・体力づくり事業財団、日本食生活協会、日本対がん協会、母子衛生研究会、日本公衆衛生協会、日本心臓財団]

■対 象

国民一般、行政・保健医療・教育関係者、その他

●プログラム

報 告

「政府における主なたばこ対策」(仮) 竹尾浩紀(厚労省)

講 演

「受動喫煙のない社会の実現のために」 大和 浩(産業医大)

「会社における禁煙対策」(仮) 岡田信彦(ジョンソン・エンド・ジョンソン)

「諸外国における分煙対策」(仮) 遠藤 治(国立保健医療科学院)

パネル討論

「受動喫煙対策について」(仮)

講 演

「禁煙支援～やめたい人がやめるために～」(仮) 繁田正子(京都府医大)

参加料：無料(先着順)

*申込み方法等は、当財団ホームページや厚生労働省「たばこ健康に関する情報ページ」をご参照ください。

●心臓財団からのお願い●

～ご寄付ならびに賛助会ご加入～

当財団が循環器疾患の予防・制圧事業を展開するうえで、その多くは寄付金ならびに賛助会費により支えられています。あなたのまわりの方にもぜひ呼びかけてください。

ご寄付はいくらでも受けさせていただいております。当財団は「特定公益増進法人」として認可を受けておりますので、税制上の優遇措置が講じられています。

賛助会は日本心臓財団の目的に賛同し、その働きを支援する方々、法人によって構成されています。賛助会費は、個人の場合、年額1万円、法人の場合は5万円で何口でも差し支えありません。

ご支援いただける場合は、下記の口座をご利用ください。

郵便振替口座 00140-3-173597
宛て先 財団法人日本心臓財団